

1. はじめに

サッカーは敵、味方の2つのチームが入り交じり、主に足でボールを操作しながらボールを奪い合う中で、パスやドリブルを使い相手をかわしてボールをゴールの近くまで運び、シュートして得点を競い合うことが楽しい運動である。また、ルールの工夫や攻め方・守り方などの戦術の工夫によって、ゲームを楽しむ運動である。さらにゲームを楽しむために、マナーやルールを尊重し、チーム内での協力が必要となるなど、運動を楽しむための社会的態度を養うことができる運動である。

今回、わたしたちの体育を活用し主体的な学習に取り組ませることで、友だちと関り合いながら高め合い、サッカーの楽しさを味わってほしいと考え、実践を行った。

2. 指導の工夫

○ボール慣れを意図した準備運動と教材教具の工夫

- ・一人一個のボールを用いたボール操作による動きの習得

「ボールタッチ」「ドリブル散歩」など

(フットサル用の弾みにくいボールを準備し、恐怖感のある児童には利用させた。)

- ・ペア活動での動きの習得

「インサイドキック」「アウトサイドキック」「インステップキック」「ヘディング」「トラッピング」等

(自分が習得、向上させたい動きを2人で練習し、アドバイスし合う。)

- ・チームの実態を考えさせた運動の選択

「やってみよう①② (わたしたちの体育)」からチームの実態を考えて選択し、動きを習得させる。

「ドリブルリレーゲーム」「ドリブルシュートゲーム」「パスカットゲーム」など

※ゲームは継続的に行い、連続回数、時間などを記録して記録の推移がわかるようにした。

○技能の向上を意図した運動の工夫

- ・チームの実態を考えさせた運動の選択

「活動① (わたしたちの体育)」を参考にし、チームの実態を考えて選択し、動きを習得させる。

「2対1のゲーム」「3対2のゲーム」「2ゴールゲーム」「コーナーキックゲーム」など

※「わたしたちの体育」にあるいろいろな動き、ゲームの目的、ルールなどを事前に理解させておいた。

「活動② (わたしたちの体育)」にある作戦を参考にチームで作戦を考えてゲームをする。

○学習課題の明確化と言語活動

- ・振り返り (学習のあしあと) による児童同士のコミュニケーション

3. 成果と課題

- ・全員がサッカーボールというわけにはいかなかったが、一人一個のボールを用いたボール慣れの時間を設定したことによって、ボール扱いが苦手な児童も自分の技能の向上を感じられるようになった。
- ・自分たちで運動を選択したことで自分たちがすでにできている動きに関わる運動はすぐにやめ、まだできていない動きの習得に向け、チームの中で声を掛け合いお互いに向上しようと主体的に取り組んでいる姿が見られた。ただ、ミニゲーム等の運動の目的を十分に理解せずに行っているチームもあり、指導者の声かけ、支援が必要であった。
- ・作戦を立てる場面では意見交流も活発であったが、振り返りの時間では単なる発表になることが多く意見交流にはなりにくかった。実際に動きを確認してみるなど共有する時間の設定も必要であった。

